

整理番号	HT29156	分野	人文・化学	キーワード	考古科学
------	---------	----	-------	-------	------

研究機関名	金沢大学			
プログラム名	古代を科学する！～技術革新が考古学にもたらすもの～			
先生(代表者)	中村 慎一(なかむら しんいち) 歴史言語文化学系・教授			
自己紹介	遺跡の中には、土器や石器などの遺物、住居址や墓などの遺構以外にも、古代人の生活を知る上で重要な情報源が大量に眠っています。それを最大限に活用して古代史像を肉付けしていくのが私の研究スタイルです。高校生の皆さんにぜひ考古学研究の最先端に触れていただきたいと思います。			
開催日時・募集対象	平成30年1月21日(日)	受講対象者	高校生	
集合場所・時間	金沢大学角間キャンパス人間社会1号館	(集合時間)	9:30	
開催会場	住所: 〒920-1164 石川県金沢市角間町 URL: https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/access/			
内 容				
<p>本プログラムは、考古学者と考古科学者との学際的交流の実際を紹介することで、最先端の分析技術の援用が考古学研究にどのようなブレークスルーをもたらしつつあるかを高校生の皆さんに理解してもらい、考古学における文理融合型研究の重要性を考えてもらう端緒を提供することを目的としています。プログラムの最初に、研究体感ゼミ「科学で探る中国稲作文明の原像(講師:中村慎一/久保田慎二)」を行います。続いて、午後からの実習・実験の事前説明として、「遺跡から見つかる骨・土器・微化石の科学分析(講師:覚張隆史)」と題する講義を行います。午後に行う実習①「骨・土器の3Dスキャンニングをしてみよう」では、遺跡出土品の形態情報の保存法を学びます。続く実習②「微化石の顕微鏡観察で古環境を復元しよう」では、遺跡土壌に含まれる微化石(花粉・プラントオパール・珪藻・寄生虫卵など)や炭化種子の顕微鏡観察を実施し、微小な自然遺物が有する大きな情報量について理解を深めます。最後に、実験「骨のDNA・コラーゲンを抽出してみよう」で、現代馬の骨を遺跡出土骨に見立てて、実際に各分子の抽出実験を実施し、遺跡から出土した骨からどのようにDNA情報を解析するかを紹介します。</p>				
スケジュール			持ち物	
09:30 - 10:00 受付(集合場所:人間社会1号館前)			筆記用具	
10:00 - 10:20 開講式(挨拶、オリエンテーション、科研費の説明)				
10:20 - 11:00 研究体感ゼミ「科学で探る中国稲作文明の原像」			特記事項	
11:00 - 11:30 休憩、キャンパスツアー(人間社会3号館地学実験室へ移動)				
11:30 - 12:00 講義「遺跡から見つかる骨・土器・微化石の科学分析」			万が一の事故に備え、参加者には大学指定の傷害保険に加入していただきます。参加者には実施日までに加入手続きの説明書を郵送します。	
12:00 - 13:00 昼食・休憩(大学)				
13:00 - 13:50 実習①「骨・土器の3Dスキャンニングをしてみよう」				
13:50 - 14:40 実習②「微化石の顕微鏡観察で古環境を復元しよう」				
14:40 - 15:00 クッキータイム				
15:00 - 16:20 実験「骨のDNA・コラーゲンを抽出してみよう」				
16:20 - 17:00 意見交流、修了式(アンケート記入、未来博士号の授与)				
17:00 終了・解散				

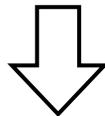
《お問合せ・お申込先》

所属・氏名：	金沢大学 人間社会研究域附属 国際文化資源学研究センター /覚張 隆史(がくはり たかし)
住所：	石川県金沢市角間町
TEL 番号：	076-264-6179
FAX 番号：	-
E-mail：	gakuhari@staff.kanazawa-u.ac.jp
申込締切日：	平成30年1月14日(日)

※当プログラムは定員を超えた場合は申込締切日後に抽選を行い、1月16日(火)までに郵便(またはメール)にて全員にご連絡します。

《プログラムと関係する先生(代表者)の科研費》

研究代表者	研究期間	研究種目	課題番号	研究課題名
中村慎一	H27-H31	新学術領域 研究(研究領 域提案)	1701	稲作と中国文明 -総合稲作文明学 の新構築-



★この科研費について、さらに詳しく知りたい方は、下記をクリック！

<http://kaken.nii.ac.jp/>

※国立情報学研究所の科研費データベースへリンクします。